

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和7年10月15日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会派名

代表者名 畑中 優周



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	畑中 優周
出張先	泊村
期間	令和7年10月9日～令和7年10月11日(3日間)
用務	泊原子力発電所について
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

泊原発の安全対策について

○ 調査の概要 期間：2025年10月10日 8:45～17:00

参加議員：畑中優周、松尾和仁、板谷昌慶、大越拓也、木村隼人、
木村勇太、小山秀人、齋藤賢之、西村雅人、藤井若菜、
松橋尚文、松原慶子、宮田団

○ 調査結果 北海道電力本社からとまりん館へ移動。とまりん館にて安全対策についてのレクチャーを受けた後、泊発電所を実際に視察する。主な視察場所は、3号機中央管理室、緊急時対策所、仮説展望台

○ 詳細 原子炉は世界に10種あり、うち7割をシェアするのがアメリカが開発した「原子炉内の水を高圧にして沸騰させず、その熱で別の水を沸騰させてタービンを回す、加圧水型軽水炉」。泊はその技術を基に三菱重工業が長年にわたり国内で改良を重ね、日本の技術として確立した設計を使用している。日本唯一の寒冷地仕様の原子炉であり、3号機は国内で最も新しいデジタル仕様の中央制御室を備えた原子炉である。1、2号機はそれぞれ579,000kwだが、3号機は1基で912,000kwを誇る。北海道電力は2030年に3号機2035年に全原発の再稼働を目指す。他都市の原発に比べ再稼働が遅れた要因は、2号機の地下にあった一部岩盤が、12～13万年以前の活断層だという証明に時間を要したため（証明に必要な残土が見つかったのは、約15cmという僅かな地層）。

安全対策には約5150億円以上の総工費をかけており、維持運営費には約800億かかる見込み。しかしそれでも、電気料金は安くなる見込み。安全対策は大きく2つ。ひとつは大規模防潮堤。大津波に対して海面から19Mの防潮堤を全方位的に整備。使用済燃料は海拔31Mの位置に保管。ひとつは緊急時にも耐えられる電源と水。電源についてはもともとの緊急電源に加えて、可搬型代替電源車8台を備えた。水は海水を汲み上げて送るポンプ車を13台配備している。その他にも、万が

一の際、汚染物質が海に流れ出ないようにする備えをし、自衛隊の退職者を積極採用した重大アクシデント対策チームを組んで日頃訓練を重ねている。